



ニュースリリース

2017年 1月30日

新日鉄住金エンジニアリング株式会社

～ 大規模沖合養殖システムの生簀システム設置による海洋実証試験の実施について ～

新日鉄住金エンジニアリング株式会社（代表取締役社長：藤原 真一、本社：東京都品川区、以下「当社」）は、このたび、尾鷲物産株式会社（代表取締役社長：小野 博行、本社：三重県尾鷲市）をはじめ、三重外湾漁業協同組合（代表理事組合長：浅井 利一）、尾鷲漁業協同組合（代表理事組合長：長野 規一）の協力を得て、大規模沖合養殖システム（以下「当システム」）の商業化に向け、大型浮沈式生簀を中核とする生簀システムの海洋実証試験（以下「本試験」）を実施いたします。

本試験は、浮沈機能を有し、沈潜状態で有義波高7m、潮流2knotまで耐えることのできる沖合養殖用の生簀システムを実海域に継続設置する実証試験であり、浮沈機構、耐久性、使い勝手、魚の成長度合い等を確認致します。

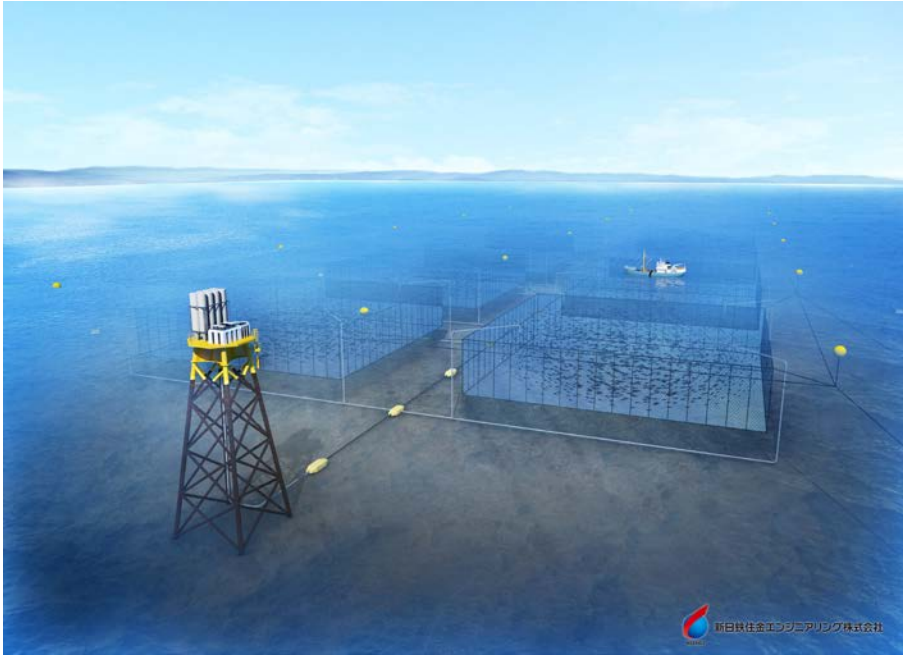
生簀システムのメリットは、下記の3点となります。

- ①耐波浪性能・耐潮流性能が高く、従来養殖ができなかった海域（新海域）での操業も可能となり、従来（沿岸）に対し、養殖可能海域（面積）を約10倍程度、拡大が見込めること。
- ②従来の生簀（小割生簀）に対し、大規模化による養殖魚の生産拡大が可能であること。
- ③潮通しの良い沖合域において、低密度で飼育することにより、養殖環境の改善が見込めると共に、沈潜させることで、赤潮の被害軽減も期待できること。

当社は、本試験ならびに自動給餌システムの海洋実証試験の各々確認完了を経て、当システムの商業化に踏み切る予定であり、2017年度に商業一号機の受注を目指します。また、当システムを将来的には国内のみではなく、日本同様、適切な養殖業の海域が飽和状態となる諸外国に対しても輸出することにより、当社は、世界的な水産業の発展に貢献してまいります。

【海洋実証試験の概要】

- ①場所：三重県尾鷲市須賀利地先（水深：約60m）
- ②設備：生簀システム（2基、幅30m×深さ20m）
- ③期間：2017年3月～2018年3月（ブリ（鰺）の水揚げまで）



【大規模沖合養殖システムのイメージ図】



【小型生簀による事前試験の様子】

【お問い合わせ先】

CSR・広報部 広報室 03-6665-2366

URL <https://www.eng.nssmc.com/ask/>

以上